

ライリア ニール サフィトリ

インドネシア出身

東京外国語大学 総合国際学研究科国際日本専攻 修士課程

受け止めること

今から 10 年ほど前に、中学生だった私は日本語を学び始めた。その間に、様々な言葉やフレーズを見つけて暗記していたが、記憶に深く残っている単語がいくつかある。

ネットで見つけた日本の番組の中に「侘び・寂び」という表現を聞いたことがある。日本の伝統的なお庭を背景に、その単語を使って美しさを表していた。その時、どんな意味だろうという疑問を浮かべていたが、ここ最近、漸くどういう意味かを理解するようになった。

調べてみると、このフレーズは日本で古くから使われている表現であることがわかった。

「侘び」と「寂び」という 2 つの単語から成立し、「詫び」という単語はもともと「わびしいこと、思いわずらうこと、悲しみなげくこと」という意味で使われていた。室町時代からは、失意や窮乏など自分の思い通りにならない状態を受け入れ、積極的に安住しようとする肯定的な意味を持つようになったそうだ。一方、「寂び」という単語は見た目の美しさについての言葉で、経年変化によってもものがさびれたり、汚れたり、欠けたりするような変化こそが美しいとみなす言葉である。

つまり、「侘び・寂び」という表現は、完璧ではないものの美しさを肯定的に受け止めようとする精神で、日本に伝わる美意識の一つとして捉えている。「金継ぎ」などといった芸術

作品や桜が咲いている時の儂さ、そして秋に紅葉が散る美しさを表す時によく使われている言葉である。近年、海外でも芸術作品や新しい生き方の信念として、よく使用されている概念となっているようだ。

この概念について深く感動していたことを今でもよく覚えている。様々な海外の記事では、この「侘び・寂び」という概念は日本独特な文化・概念として表していることが多かったが、実は私の生まれた故郷のジャワ島に「侘び・寂び」とちょっと近い概念の言葉が身近に存在する。

私の故郷の中央ジャワでは、普段インドネシア語以外にも、私たちはジャワ語という地域語を使って日常を送っている。ジャワ語は、まだ若いインドネシア語と違って、何百年もの歴史を持つ言語である。ジャワ語には「legowo」という表現が存在する。この意味を簡単に説明すると「何か悪いことがあっても、誠実に受け止めること」という概念の言葉である。

この世の全ての出来事は運命であり、人間は受け止めながら生き続けることが大事だと、そういう器の大きい人にならなければならないということを両親に習ったことがある。この道徳は昔からの教えのようなものであり、日常会話でも、よく使われている言葉である。

「侘び・寂び」という表現を読んだときに、私の中でなんとなく小さい頃からの教えを突

然思い出し、本当に些細な共通点ではあったが、深く印象に残っている言葉となっている。

小さい頃から「受け止める」こととは何かとよく分からなくて、負けず嫌いという性格で、上手くいかない時はよく悔しがったり、悲しんだり、憂鬱になったりしたが、大人になっていくに連れて、様々なことを経験しながら「受け止める」ことを実際に勉強するようになった。足りないことや予想外のこと、思い通りにならないことは生きているうちに必ず数えきれないほど起こってしまうのは当然だ。しかし、そのようなことをそのまま受け止めて、完璧ではなくても、それでも人生は美しいという「詫び・寂び」のような、「legowo」のような心構えを少しずつでも持つようになった。このように 2 つの大好きな文化が自分の中で交差して、学びを得られることにとても感謝している。